

乾燥対策のポイントは 「角質層の隙間を埋める」こと

乾燥肌の大きな原因は、セラミド(タイプIのセラミド)不足によって、角質層に隙間ができ水分が逃げる。乾燥対策のポイントは、タイプIのセラミドを補給して角質層の隙間を埋めることです。多くの方は、洗顔後化粧水で水分を補給し、乳液・クリームなどの保湿液を使って「フタ」をします。塗ってフタをした時はしっとりした感じになりますが、角質層の隙間は開いたままのため、角質層で水分を保持することができず、乾燥を繰り返します。

乾燥が気になり始めたら、海森水をスプレーしてください。海森水の役割は、角質層の隙間を埋めること。海森水に含有するタイプIのセラミド(リノール酸)が、角質層の隙間を埋めます。また、全て自然な原料でできているため、合成化学薬剤のように肌内部を酸化させません。徐々に、肌自身で角質層の隙間を埋めるようになる(肌の自然治癒力であるバリア形成機能*が高まる)ので、乾燥しにくい肌になっていくのが特長です。

※皮脂・汗分泌機能、表皮新陳代謝、血液循環など

角質バリアの要「細胞間脂質」

角質層中の角質細胞と角質細胞をつなぎあわせて、水分保持の80%を担うのが細胞間脂質。その主成分であるセラミドは6つのタイプがあり、特に角質層を通してのモノの出入りを押さえるバリア機能に欠かせないのがタイプIのセラミド。タイプIのセラミドは、必須脂肪酸のリノール酸を含んでおり、このリノール酸が不足すると、角質バリアとしての働きが低下します。肌からの水分の蒸散量が増加し、肌は荒れてカサカサになります。また、刺激物質が簡単に肌内部に入り込み炎症を起こしやすくなります。

リノール酸は、体内で合成することができないため、体の外から補給する必要があります。通常食事から摂取^{※1}します。多くの食品に含まれており、ダイエットなど偏った食事を続けられない限り不足することはありません。しかし、日頃のスキンケアで、クレンジングや洗顔剤、保湿液など合成界面活性剤の入ったモノを使うことでセラミドは容易に流出するため、応急処置として天然のリノール酸(タイプIのセラミド)を肌から角質層へ補給し、角質層の隙間を埋める必要があります。なお、リノール酸は酸化されやすく、ビタミンE^{※2}(α -トコフェロール)の同時補給が必要不可欠です。

※1 食事から摂取したリノール酸は、血液循環によって角質層へ運ばれタイプIのセラミドになります。角質細胞になる過程で細胞の外に放出されたタイプ2~6のセラミドと合わさることで、コレステロール・アミノ酸類などと共に細胞間脂質を形成し、隙間のない、バリア力を持った角質層を形成します。

セラミドをつくる一連の流れをセラミド代謝といいます。セラミド代謝が正しく機能するためには、肌内環境(角質層下)がアルカリ性でなければなりません。合成化学薬剤は肌内環境を酸化させます。いくらリノール酸を補給しても、それが化学薬剤をベースにしたものであれば、乾燥肌を根本から改善することはできません。しっとりするのはあくまで一時的。乾燥しにくい肌をつくり、本来のしっとりした素肌を取り戻すためには、補給する全ての成分が自然なモノ、かつ微量であることも欠かせません。

※2 ビタミンCは天然も合成も効果は同じですが、ビタミンEは天然の方が効果があると言われています。海森化粧品には、天然のビタミンE(α -トコフェロール)が含まれています。